

三重県いなべ市

水素利用拡大と里山再生による地域経済循環の実現

【テーマ】 戦略的なインフラマネジメントを担う自治体の体制の確保 / スモールコンセッションの推進 / グリーン社会の実現 / その他（ ）

【対象施設】 道路 / 橋梁 / 公園 / 上下水道 / 河川 / 港湾 / 遊休施設 / その他（水素ステーション、里山）

【事業方式】 コンセッション / その他のPFI / 包括的民間委託 / その他（新たな官民連携）

東海環状自動車道全線開通を間近に控え、FCV向けを中心とする水素エネルギーの不足が見込まれる。水素の安定供給を目指す中で、地域の維持管理不足の里山の機能を活用し、里山の再生にもつなげることで、地域内経済の好循環につなげたい。

①解決したい課題

燃料電池車普及を通じた水素利用拡大

【背景】

- ・ 当市は「チャレンジ・カーボンニュートラルいなべ」を掲げ、ゼロカーボンシティを目指している。
- ・ 特に水素利活用に取り組み、令和6年4月には、市内の企業も利用できる水素ステーション（FCV充填用）を設置した。
- ・ 設置後、利用登録する事業者が増え、今後さらなる利用の拡大が見込まれる。
- ・ 現在はグリーン水素とはなっていないが、重点対策加速化事業や民間企業の支援により、太陽光パネルの設置が計画されている。

【課題】

- ・ 今後のFCV充填の需要に対応するため、水素ステーションの拡張や増設を検討したい。
- ・ 水素エネルギーの安定供給に向けて、生成から運搬までのサプライチェーンを構築したい。

地域資源としての活用等による里山再生

【背景】

- ・ 放棄林を整備した「にぎわいの森」を中心に、グリーンインフラの事業展開を図っている。
- ・ 水素ST周辺には鎌田川や員弁川があり、小水力発電の可能性もある。
- ・ 鎌田川ははじめ市内の河川、農地、森林など維持管理がされていない里山がある。

【課題】

- ・ 河川含む荒廃した里山について、持続可能なしくみのなかで再生させたい。



人口：44,507人（R7.1.1）

面積：219km²

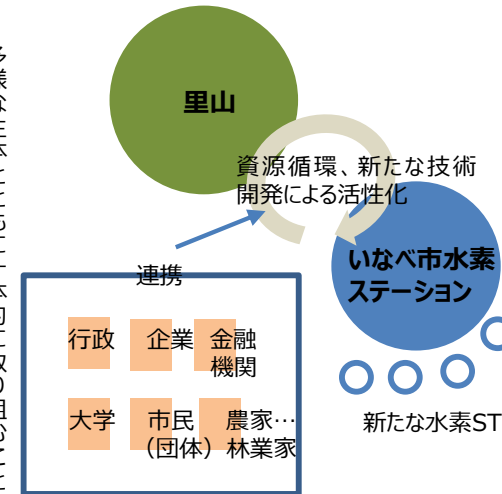
水素ST所在地：

三重県いなべ市北勢町阿下喜74番地2

約6割が森林。員弁川流域で、西に鈴鹿山脈、北に養老山地がある。自然共生サイトに認定された「ふるさとの森」もあり、緑豊かで住みよいまちである。自動車産業中心に製造業が盛んで、東海環状自動車道の新全線開通が目前に迫ってきていることから、さらなる産業の発展に期待がかかる。

②課題解決の方向性等

多様な主体とともに一体的に取り組むことで持続可能で活力ある地域内の経済循環を目指す



【課題解決の方向性】

- ・ 既存の水素ステーションにおけるグリーン水素生成量を増やす。
- ・ EV、FCVなどモビリティの脱炭素化に合わせ、水素ステーションの適地計画づくりをする。
- ・ 里山（河川、森林、農地、緑地、ため池、水路など）のフィールドを活用し、太陽光や小水力などによる再生可能エネルギー電力の拡大を図りながら、里山の維持管理、機能再生、生物多様性の回復につながるしくみをつくる。
- ・ 再生電力は、地域内循環と共に、水素エネルギーなど多面的利用を民間リソースを活用しながらすめ、カーボンニュートラル社会の実現を目指す。
- ・ 持続性確保のためJ-クレジットなどで里山を保全する事業者や市民団体、市事業等に還元できるしくみをつくる。

【スケジュールと期待するシーズ提案】
（令和7年度）

課題の解決に向けて、スキーム構築のほか、技術開発、適地選定、体制づくりなどの調査検討、実証実験。

（令和8年度～）

令和7年度の結果を受け実装または調査継続。

③課題解決のイメージ・効果

【目指す姿】

- ・ 河川、森林、緑地等が適切に維持管理され、地域の生活環境が向上する。
- ・ 水素利用が推進し脱炭素社会に貢献する。
- ・ 地域の企業の活性化が図られる。
- ・ SDGs 未来都市として全国の中山間地域に展開可能な好事例をつくる。

【アウトカム】

- ・ 移住定住人口の増加
- ・ ウェルビーイングの向上
- ・ 市民の所得の増加

その他

- ・ 自治体新電力「自然電力いなべ」の取組として、公共施設中心にエネルギーの地域循環を目指している。
- ・ いなべ市水素ステーションは新たなモビリティエネルギーの拠点となる予定であり、現在水素充填設備は1基であるが、数を増やす可能性がある。